

[果樹部門]

## 6. イチジク株枯病の抵抗性台木に接木した「蓬莱柿」の生育と果実品質

[要約]

イチジク株枯病に抵抗性がある「イスキアブラック」、「セレスト」を台木に用いて接木した「蓬莱柿」の生育、果実品質は、自根の「蓬莱柿」とほぼ同等である。

[担当] 病虫研究室

[連絡先] 電話 086-955-0543

[分類] 情報

---

[背景・ねらい]

イチジク株枯病対策として抵抗性台木の利用が有効と考えられる。そこで、抵抗性台木として有望な「イスキアブラック」、「セレスト」に接木した「蓬莱柿」の生育、果実品質を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「イスキアブラック台蓬莱柿」及び「セレスト台蓬莱柿」は、自根の「蓬莱柿」に比較して、株枯病発病跡地に定植後の株枯病による枯死が少ない（表1）。
2. 開心自然形に整枝した「イスキアブラック台蓬莱柿」及び「セレスト台蓬莱柿」の地際的主幹部直径、新梢基部直径は、いずれも自根の「蓬莱柿」とほぼ同等である（図1、図2）。
3. 「イスキアブラック台蓬莱柿」及び「セレスト台蓬莱柿」の果実の果実重、果皮色、糖度及び食味は、いずれも自根の「蓬莱柿」とほぼ同等である（図3、表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験は露地栽培の若木（接木3年目の4年生樹）での試験である。
2. 抵抗性台木の接木樹でも株枯病に罹病する場合もあるため、株枯病の発生圃場では薬剤灌注による防除も併せて行う。
3. ネコブセンチュウの加害は株枯病の発病を助長し、抵抗性台木品種は「蓬莱柿」に比較してネコブセンチュウの被害を受けやすいと考えられるので、ネコブセンチュウ対策を併せて行う。

[具体的データ]

表1 株枯病発病跡地に定植した苗木の株枯病による枯死樹数

供試台木品種	調査月日					
	2008. 8.12	2008. 10.17	2009. 8.10	2009. 10.26	2010. 5.7	2010. 10.19
イスキアブラック	0/3 <sup>z</sup>	0/3	0/3	0/3	1/3	1/3
セレスト	0/3	0/3	0/3	0/3	0/3	0/3
蓬萊柿(自根)	1/3	1/3	2/3	2/3	3/3	3/3

<sup>z</sup> 枯死樹数/供試樹数

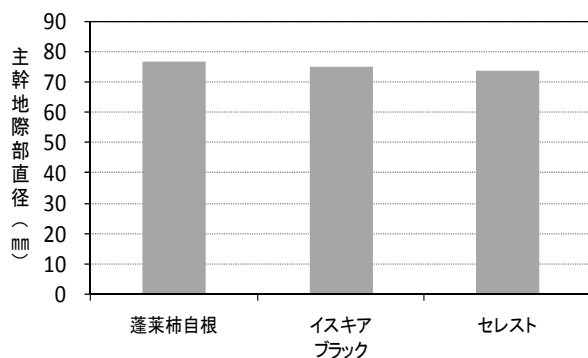


図1 台木別の「蓬萊柿」主幹直径の比較

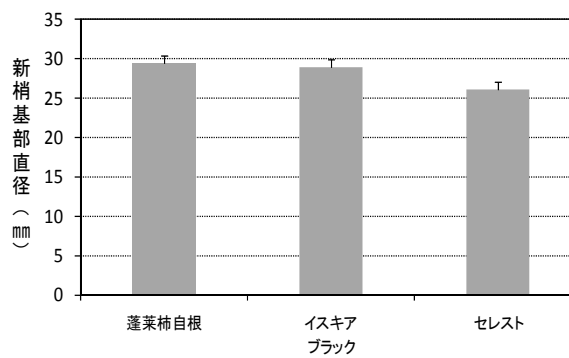


図2 台木別の「蓬萊柿」新梢基部直径の比較

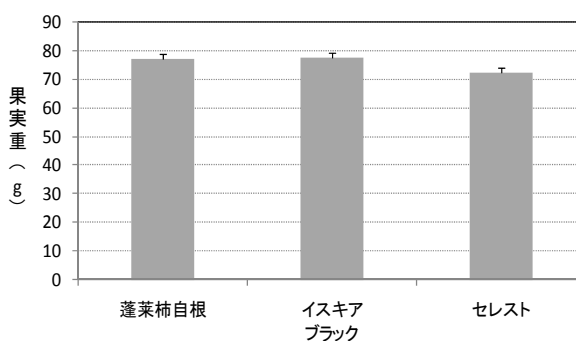


図3 台木別の「蓬萊柿」果実重量の比較

表2 台木の種類が「蓬萊柿」果実品質に及ぼす影響

台木品種名	果皮色 <sup>z</sup>	糖度 (Brix)	食味 <sup>y</sup>
イスキアブラック	3.5	19.9	3.8
セレスト	3.4	18.4	3.4
蓬萊柿(自根)	3.7	18.0	3.5

<sup>z</sup> JA倉敷かさやの出荷基準；紫(指数1)～緑(指数8)の8段階

<sup>y</sup> 不良(1)～良(5)の5段階

[その他]

研究課題名：イチジク株枯病の生態解明と総合防除技術の開発

予算区分：交付金(病虫害防除農薬環境リスク低減技術確立)

研究期間：2007～2009年度

研究担当者：井上幸次

関連情報等：平成18年度試験研究主要成果、51-52